

ある日の夕方のことです。高学年の子が2人「家の近くで見つけた」と、土器の破片を持って訪ねてきました。

早速、学芸員が対応しました。2人が持ってきた土器は一般的なものでした。でも、自分の住んでいる地域が県内でも貴重な遺跡だということを知り、2人は満足そうに帰っていきました。

この子たち、先日、文化の森で歴史の勉強をしました。学芸員の話に興味深く聴いていました。

文化の森は広く大人だけでなく、幼保、小中学校にも学びのときと場を提供しています。博物館が人と関わりながら、気軽に学ぶことのできる身近な場所だと子どもに感じてほしいからです。

今日も「娘が蚕をもらってきて…」と一人の父親が相談に来ました。きっと、家庭でも文化の森のことが話題になっているのでしょう。